

里親推進のシンボル「フォスタリングマーク」がめざすもの

里親が育てる。社会が支える。

子どもが健やかに成長していくには、家庭で暮らすという経験がとても重要です。しかし、日本国内には、さまざまな事情で生みの家族と暮らすことができず、社会的な養護を必要としている子どもが、約4万5千人います。このような子どもたちを自分の家庭に迎え入れ、温かい愛情で包み込み、子どもたちの課題を正しく理解し、その成長をサポートしてくれるのが「里親」です。

私たち「子どもの家庭養育推進官民協議会」では、子どもの「最善の利益」のために、すべての子どもたちが幸福で愛情豊かな家庭環境のなかで成長できる社会をめざし、全国の有志の自治体と賛同する民間団体が協働して取り組みを推進しています。

この取り組みのシンボルとして、子どもの家庭養育推進官民協議会と日本財団とで「フォスタリングマーク」を作成しました。

私たちは、このマークを象徴として、同じ目標に向けて取り組む皆さんと力を合わせ、支援を必要としている子どもたちが、育ちを支える里親家庭と深い愛情で強く結ばれることを応援します。また、その家庭を支える社会の支援の輪が広がっていくことを願っています。そして、子どもたちがどこで生まれ、育つとしても、権利が守られ、温かく幸せな家庭で暮らし、自らの可能性を最大限に発揮することができる社会の実現をめざします。

参考：デザインに込めた思い

「縁結び」という言葉があるように「糸や紐が結ばれた様子」には、何か「つながり」や「絆」を感じさせる印象があります。このマークは、シンプルなデザインの中に里子と里親との「つながり」や「絆」を表現しており、里親が育て、それを社会が支える気運が醸成されていくことを願う思いが込められています。